

日本システム企画

総合水処理装置メーカーへ

グリーンエネ開発に舵取り

赤水対策・赤水防止、給水管や空調配管などの配管更生の独自工法や水処理装置の製造・販売を手掛ける日本システム企画(本社・東京都渋谷区、熊野活行社長)は、これまでの配管内赤錆防止装置のほかに、カルシウムスケール(付着物)防止装置などの販売を始めるなど、「総合水処理装置メーカー」として事業展開する(熊野社長)。

また、「グリーンエネルギーを使った新しい発電システムの開発会社に大きくかじを切る」。早ければ3年以内、遅くとも5年以内の株式上場を目指すという。



熊野社長

今月から発売予定のカルシウムスケール防止装置「ノンスケラー」は、定期的なカルシウム洗浄工事を解消する。日本国内では主に、工場などの冷却水配管、熱交換機、ボイラー向けの需要がある。また、海外の需要も見込め、特

に、米国や欧州は硬水による発電システムが実現すれば、配管内全体のスケール対策として、配管内赤錆構成装置「NMRパイプテクター」以上の市場が期待できるといふ。

また、グリーンエネルギーである新発電システムは、今春以降、小プラント実験を始める予定だ。2008年3月8月に基本構想を固め、9月から水槽・模型実験を始めている。これまでに十数件の特許を出願している。「新しい「NMRパイプテクター」は、

水中の自由電子(水和電子)で赤錆を黒錆に還元し防食する世界で唯一の装置で、欧州でも特許を取得している。ことしは米国でも特許を取得できる見通しだ(熊野社長)。

国内は、日本赤十字社の本社・病院を始め、ホテル、病院、マンションなど2500棟を超える建物で使われるまでに発展してきた。海外は、英国で唯一の配管内赤錆防止装置としてほぼ独占的に販売している。結果、ナイチンゲルが世界で最初に看護学校を設立したセントトーマス病院、英国国営放送、ヒルトン、マリオットといった高級ホテル、ウィンザー城、バッキンガム宮殿などに導入実績がある。